



教育目標具現化の努力点・具体的方策

【学校教育目標達成の環境づくり】

- ① 支持的風土に支えられた学級づくり（学級集団づくり）
- ② 地域に開かれた学校（学習参観、開放週間、学校評価等）
- ③ 家庭との連携の充実（学級懇談会やPTA活動等への協力と参加、積極的な連絡や助言）
- ④ 地域の教育資源や教育力の有効活用
- ⑤ 地域と連携した防災教育の実施
- ⑥ 家庭や地域と連携した安全の確保（スクールヘルパー、ブックヘルパー、登下校安全指導、いっせいくんの活用）
- ⑦ 情報の発信（学校HP、学校だより、学年・学級だより家庭訪問等）

【教育活動の充実と規律ある学校生活づくり】

- ① □子どもの心の居場所づくり（担任、学年主任、生徒指導主任、養護教諭、等による密接な連携と取組）
- ② 生徒指導の充実（共通理解と同一対応、早期発見と早期対応、危機管理意識（サシスセソ）の高揚と問題事象への緊急対応）
- ③ 清掃指導や給食指導の充実（子どもと心の交流の場）
- ④ 小中一貫・連携教育の充実（企救中、北方小）
- ⑤ 学習機会の拡充と学習内容の定着（意欲的に取り組む家庭学習の工夫、補充・発展学習の工夫）わか塾の活用
- ⑥ 時代の変化に対応する資質や能力の育成（外国語活動、情報処理、主体的・能動的学習の育成）

【授業力向上と職員のチームワークづくり】

- ① 全校体制で策定・実施・検証・改善のできるスクールプランの作成と推進（学力定着サポートシステムの活用）
- ② 主題研究の推進（アクティブ・ラーニングの視点で）
- ③ 職員研修の充実（事務改善会議、体罰、飲酒運転、セクハラ等 不祥事防止、業務改善研修、学力向上推進員の活用）
- ④ ワークラブバランスを大切にされた職場（19時退勤を）
- ⑤ 確かな手ごたえを実感できる研修の充実（人材育成の研修）
・学年研修日の設定 ・若年研修（教職経験8年未満）
・小学校体育授業パワーアッププランの活用
- ⑥ 実践のまとめや論文等で研究の成果と課題の確認（次にどう生かすかPDC Aサイクルの徹底）

<道徳教育>（「特別な教科道徳」の一部先行実施）

- 思いやりの心を育む教育の充実（私たちの道徳の効果的な活用等）
- 自立心・自律性・自尊感情を育てる指導の充実（成果や頑張りをほめる）

<教科指導>

- 基礎的・基本的な内容の習得と思考・判断・表現等活用力
- 問題解決的な学習と生きる力の基盤となる「言語活動」の充実

<特別活動>

- 学級活動の充実（学級会を通しての自治的な実践と自己決定の重視）
- 子ども同士が触れ合う集会活動の充実

<外国語活動>

- コミュニケーション活動の楽しさ、ALT と連携した効果的な指導

<総合的な学習の時間>

- 若園小学校のプランを模索し、探究的な学習に取り組む

<健康・保健・安全教育>

- 発達段階に応じた系統的な健康・発育指導と日常の健康観察の徹底

<食育>

- 給食指導、学級活動を中心に望ましい食習慣の形成

<生徒指導> 問題行動の早期発見と早期対応を基盤に（ピンチをチャンスに！！組織で対応）<環境教育>

- 関連機関との連携及び、いじめ・不登校対応（チームとしての学校）

○教育・就学相談の充実（管理職、生徒指導主任、学年主任、担任）

<人権教育> 教育活動の基盤とし、全教育活動の中で

- 学校や地域の実態をふまえた人権意識の高揚を図る

○人権感覚の育成に向けた指導内容の工夫（新版いのちの活用）

<特別支援教育>「北九州市特別支援教育推進プラン」に沿った推進体制の整備<国際理解教育>

- 特別支援学級と連携し、自立活動を参考に適切な指導・支援を

- 校内支援体制と情報の共有化を図る（小倉南特別支援学校と連携の充実）

<防災教育>

- 様々な自然災害を想定し、災害発生時の適切な行動がとれる児童の育成

<キャリア教育>

- 体験を通して、勤労観や職業観を育てる指導の工夫

<学校図書館教育>

- 学習センター、情報センターとしての環境整備

<環境教育>

- 身近な環境問題に着目し豊かな感受性を育てる

<情報教育>

- 情報活用能力の育成
- 情報モラルの指導の徹底
- ICT機器を活用した指導の工夫

<国際理解教育>

- 異文化・自文化の理解と尊重を目的とした体験的な活動の充実

- 各教科、総合等との関連性を

<50周年記念事業>

- 子どもの心に残る周年事業（10月28日土）
- シビックプライドを醸成研修（校歌指導の徹底）